

## 音源の位相チェック実験(30)

### —CD における確認(9)—

#### 1. はじめに

前報(29)に引き続き、CD における位相チェックの検討を行います。

#### 2. 音源の位相チェックの試聴方法

今回もメインシステムに戻って試聴していきますが、対応するアナログ盤との比較を行ってみます。

CD は、CD ドライブから読み出し、fidata HFAS1-S10 から Brooklyn DAC+に USB 経由で送り出し、その位相反転機能を活用します。アナログは、LINN LP-12 が改造工事中なので、Garrad401 と ZANDEN Model 120 による再生とします。試聴した音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

##### CD

ドイツグラモフォン 4855219

J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集

ヒラリー・ハーン(Vn) / ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内オーケストラ

harmonia mundi HMM92335-6

J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集

イザベル・ファウスト(Vn) / ベルリン古楽アカデミー

PHILIPS UCCP-1114

J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集

諏訪内晶子(Vn・指揮) / ヨーロッパ室内管弦楽団

アナログ

ドイツグラモフォン 4855219

J.S,Bach ヴァイオリン協奏曲集

ヒラリー・ハーン(Vn) / ジェフリー・カーン指揮ロスアンゼルス室内オーケストラ

#### 3. 音源の位相チェックの試聴結果

ドイツグラモフォン 4855219 のヒラリー・ハーン盤の CD は、アナログ盤の付録で入手したものです。ヒラリー・ハーンとしては、速いテンポの明るい音で軽快に弾いています。位相反転すると音が散漫になります。

harmonia mundi HMM92335-6 のイザベル・ファウスト盤は、2017 年の録音でバックのベルリン古楽アカデミーはガット弦で、おそらくファウストもそれに合わせてガット

弦を用いていると思われ、落ち着いた音色です。位相反転すると全体に音が散漫になります。

PHILIPS UCCP-1114 の諏訪内晶子盤は、2005 年の録音でオーソドックスな演奏ですが、位相反転すると全体に音が散漫になり、ストラディヴァリウスの音色がぼやけます。

ドイツグラモフォン 4855219 のヒラリー・ハーンのアナログ盤は、2002 年の録音で、ZANDEN Model 120 の活用(24)において報告済であり、その追認になります。Garrad401 と ZANDEN Model 120 による組み合わせでも、TELDEC の正相、第 4 時定数 Mid で問題なさそうです。

#### 4. まとめ

3 枚の CD もヒラリー・ハーンのアナログ盤も近年のデジタル録音で、ともに正相で良さそうです。

以上